

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
2012 年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名 稲角 暢

平成 23 年度 (入学・編入)

## 1. 研究課題:

牧畜民による家畜の放牧管理における人 - 家畜関係の研究: ケニア・ポコット社会の事例

## 2. 渡航先:

現地滞在期間: 平成 24 年 9 月 14 日 ~ 24 年 12 月 13 日 ( 91 日間)

## 3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

私の研究の目的は、ポコットの社会変化に伴った、家畜管理における家畜への人々の介入行動の変化を探り、同時にそれに反応した家畜の行動の変化をとらえることで、人 - 家畜関係の現代的形態を示し、地域における生業としての牧畜の将来像を予測することである。ポコットの地域社会での長期間のフィールドワークにより、ウシ・ヤギ・ヒツジ・ラクダ・ロバという 5 つの家畜について、その放牧経路のデータを収集し、その家畜管理について 20 世帯に詳細な聞き取り調査を行った。その結果、家畜の放牧経路は狭い範囲の土地にとどまり、遠く離れてはいかないこと、人々は家畜の出かけていく方向・地域が特定の場所であることを把握し、管理者をつけずに放牧することも多いこと、近所に住む世帯では放牧地の棲み分けとでもいべき、家畜の放牧地の分散が見られたことなどの知見が調査から得られた。

## 4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

3 ヶ月間という短期の調査では確認することのできない、家畜の周年的な管理形態を、長期的に自らの目で観察し、調査することが求められる。そのため、今年度の調査後には博士予備論文を提出し、博士論文に向けての 1 年間の調査を予定している。その中では、聞き取りのみでしか確認できていない各種家畜の各季節の管理方法を記録し、他地域の牧畜民の家畜管理形態と比較することで研究を行うつもりである。また、ケニアのナイロビ大学などの現地の研究機関との連携をさらに強くし、共同研究に向けた試みも必要とされる。語学面では、ケニアの公用語である英語・スワヒリ語だけでなく、ポコット語の強化が非常に重要であり、研究に大いに貢献するであろうことを期待する。

## 5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

私にとって本プログラムは、自身の研究に直接かかわるフィールドデータを収集できたという意味で、大きな意義を持つものであった。また、ナイロビ大学をはじめとする各現地研究者との交流は、刺激にみちたものであった。今後もフィールドワークの支援、あるいは語学研修支援を目的とした留学プログラムがあれば、積極的に参加したいと思っている。

\*1 ページを超えないようにしてください。

\* **プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。**

署名